

第4版の序

—To be a BilioPancreatic Endoscopy Master—

時間が経つのは本当に早いものである。つい先日第3版を出版させていただいたと思ったが、すでに6年前のことであった。この時間の速さの原因の大部分は歴史的な“新型コロナ感染症”によりいわゆる空白の期間があったことも影響しているであろう。いずれにしても、一般的にガイドラインでは内容のアップデートのために5年ごとの改訂が望ましいとされているが、胆膵内視鏡領域もこの10年急激な進歩を遂げており、今回の改訂はまさに機が熟したものであると考えている。この15年間、本書が皆様に愛され、お手に取っていただいたおかげで、今回第4版を出版することができ、本当に感謝の念に堪えない。これを機にベストセラーからロングセラーを目指したいと願っている。

これまでにも述べてきたが、ERCPを行うための“はじめの一歩”である、カニュレーション等の基本は大きくは変わらない。したがって、第4版になんでも理論的な戦略はこれまで同様である。しかし、デバイスは常に開発、改良されており、アップデートされた知識をもち合わせていくことはERCPマスターになるためには必須と考えられる。いわゆる“弘法筆を選ぶ”であり、よりよい手技を行い予期せぬ偶発症を最小限にするために、ぜひ本書からそのノウハウを学んでいただきたい。こうしたERCPの発展に加えて、EUSの進歩は目を見張るものがある。特に、治療的EUSにおいては、日本が誇るデバイス開発や手技の工夫が満載である。その基本を含めて、コンセプトを本書で堪能していただきたい。また、今回も、若手の先生方をEncourageすべく、欧米で医師免許を取得し、それぞれのユニットで活躍している（日本人離れした）日本人内視鏡医に、海外に目を向けることの重要性を説いていただいた。

本書がこれからも胆膵領域の内視鏡関連手技において、多くの初学者の指南本となり続けることを願ってやまない。

最後に、たいへんお忙しいなか執筆、ビデオ作製をしていただいた各執筆者および執筆協力者に厚く御礼を申し上げるとともに、タイトなスケジュールの中、発刊に尽力された企画担当 鈴木美奈子氏ならびに制作担当 阿部壮岐氏に感謝申し上げたい。

2023年10月

糸井隆夫